

令和7年度 学校評価自己評価表 三次市立栗屋小学校

経営目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	自己評価		8月分析	8月改善方策	学校関係者評価を受けて	自己評価		1月分析	1月改善方策	学校関係者評価を受けて					
					達成値	評価				1月	評価								
															達成値	評価			
確かな学力	【表現力】	教科書の内容を理解し、活用問題も解くことができる。	① 個々の児童の置きを分析し、組織的な指導・支援により、それぞれの課題解決を図る。 ② 三次版「授業モデル」や十日市中学校区オリジナルカリキュラムを基に、栗屋授業モデルを活用し授業改善を推進する。 ③ 読書ファイルの活用等を通して、読書活動の充実を図る。	単元末テスト(算数科、国語科)で知識及び技能の学校平均の正答率70%以上、思考力・判断力・表現力等の学校平均の正答率50%以上。 ↓ 指標変更(9月)知識技能80%以上 思・判・表70%以上	【国語】知識技能104% 思考力147%	A	・目標は達成できていた。 ・算数の計算など知識・技能を問う問題はよくできていた。しかし、思考力・判断力・表現力を問う問題はよくなかった。国語の読み取り問題はできていたが、漢字や言葉の問題の正答率が低かった。また、学年によってばらつきがあった。 ・算数の授業で自分の考えを記述したり、人に説明するかわり合いの機会を増やす。 ・基礎的内容を単元に関連して復習する。 ・複数の資料を読み比べて問題を解くような問題に取り組ませる。 ・言葉の意味を確認して使ったり、文を賞える活動に取り組む。 ・文章に読み慣れるよう読書活動を充実させる。	「確かな学力」について、基礎・基本の力の定着を図ってもらいたいとの意見をいただいた。 評価指標について、高学年と低学年で設定値を変えてもよいのではないかと意見もいただいた。目標に向けた取組・改善方策を確実に実施する。	【国語】知識技能97% 思考力112% 【算数】知識技能104% 思考力102%	B	・指標を変更したため達成が難しくなった児童もいたが、全体としては目標は達成できた。 ・達成率は高いが、個々の児童を見る課題がある。 ○計算など知識・技能を問う問題 △思考力・判断力・表現力を問う問題 ○授業で扱った文章の読み取り △初見の文章の読み取り	・学年で学習する基礎的内容に重点的に取り組ませ、定着を図る。 ・算数の授業で自分の考えを記述したり、人に説明するかわり合いの機会を増やす。 ・言葉の意味を丁寧に教え、文章を読んだり書いたりする活動に取り組ませる。	「確かな学力」について、読むこと・書くこと・計算など、基本の力の定着に係る取組を今後もしっかりと継続してもらいたいとの意見をいただいた。 児童が活字に触れる機会をより多くつづけることができるよう、読書活動の工夫・改善を行っていく。						
					自分の考えを相手に伝えることができる児童を育てる。	① かわり合いながら学ぶ場、自分の考えを伝える場を確保し、主体的な学びを深め、表現力を高める。 ② 持続的な学びに繋がるよう、授業のまとめや振り返りを書かせる。 ③ 成果物出品により自己肯定感を高め、表現することへの自信と意欲を高める。			学びの過程や振り返りを具体的に分かりやすいノート等に書いている児童90%以上。	49%				D	・高学年のノートをもとに、学びの過程や振り返りの具体的な記述とはどのようなものかを示す必要がある。 ・振り返りの視点を見直す必要がある。現在取り組んでいるものに加え、算数科の内容も書かせるようにする。	・学びの過程の達成率は61%、振り返りは44%であり、目標は未達成であるが、いずれも前期より上がった。 ・学びの過程では、高学年は前期と変わらず100%であった。しかし、低・中学年にもあまり変化が見られなかったことから、教員間で指標を共有し、系統的に指導できるようにする必要がある。 ・振り返りでは、視点を具体化したことから、高学年の達成率は上がった。しかし、低・中学年の多くは、具体的ではない記述や感想に留まっている児童が5割いる。	・学びの過程や振り返りの具体的な記述について全体指導する。 ・指導者は花丸だけでなく、肯定的評価をしつつ具体的に指導する必要がある。 ・学びの過程と振り返りの指標を教員間で共有できるように作成する。		
					成果物出品により自己肯定感を高め、表現することへの自信と意欲を高める。	① 互いに認め合い、助け合う集団づくりを進める。 ② 挨拶、時間、当番活動等への責任感を高め、評価する。			挨拶、時間の意識、当番活動、自分や他者のよさ・頑張りを認め合って周りに積極的に関わる児童を90%以上にする。(アンケート)	91%				B	・全項目の肯定的な回答をした児童の割合は82%であった。昨年度の結果と比較すると時間の意識の項目のみ肯定的な回答をした児童の割合が増加している。 ・今年度から追加された挨拶の項目は100%の児童が肯定的な回答をしている。児童会が中心となって挨拶にかかわる取り組みを行った成果であると考えられる。	・2学期はスマイルのわの取り組みを行い、周囲と積極的に関わり、よさや頑張りを認め合うスキルを児童が身に付けられるようにする。 ・児童会を見習い、自分から挨拶する習慣づけを行うため、各学級で促していく。 ・教職員からの肯定的評価を大切にしている。	・「豊かな心と健やかな体」について、自己肯定感がさらに高まるよう、一人ひとりの取組に対する評価や支援が、今後も丁寧に継続してほしいとの意見をいただいた。日常的な児童への肯定的評価、学級活動や道徳の学習を通して、自他を尊重できる児童の育成に努めていく。 児童に体力をつけてもらいたいとの意見をいただいた。体力テストの結果分析をもとに、後期からの体力づくりの取組を生活健康部を中心に計画・実施予定である。目標達成に向けて取り組んでいく。	・自己肯定感の向上のため、全体や各学級について、児童の肯定感を上げる取組(良い所見つけ、教師からのリフレーミング)などを行う。 ・児童会を中心に、集会やレクなどを行い、児童間での会話や遊びなどのやりとりができる機会を設ける。	「豊かな心と健やかな体」について、体力向上に向けた取組を継続して実施してもらいたいとの意見をいただいた。児童の体力向上と運動の楽しさを実感できる取組について、工夫して実践につなげていく。 本校の児童に限らず、体が硬い児童が多いことを心配だという意見をいただいた。継続的な取組となるよう、計画を立てていく。
					基本的な生活習慣の確立と体力向上を図る。	① 互いに認め合い、助け合う集団づくりを進める。 ② 挨拶、時間、当番活動等への責任感を高め、評価する。			挨拶、時間の意識、当番活動、自分や他者のよさ・頑張りを認め合って周りに積極的に関わる児童を90%以上にする。(アンケート)	91%				B	・全項目の肯定的な回答をした児童の割合は82%であった。昨年度の結果と比較すると時間の意識の項目のみ肯定的な回答をした児童の割合が増加している。 ・今年度から追加された挨拶の項目は100%の児童が肯定的な回答をしている。児童会が中心となって挨拶にかかわる取り組みを行った成果であると考えられる。	・2学期はスマイルのわの取り組みを行い、周囲と積極的に関わり、よさや頑張りを認め合うスキルを児童が身に付けられるようにする。 ・児童会を見習い、自分から挨拶する習慣づけを行うため、各学級で促していく。 ・教職員からの肯定的評価を大切にしている。	・「豊かな心と健やかな体」について、自己肯定感がさらに高まるよう、一人ひとりの取組に対する評価や支援が、今後も丁寧に継続してほしいとの意見をいただいた。日常的な児童への肯定的評価、学級活動や道徳の学習を通して、自他を尊重できる児童の育成に努めていく。 児童に体力をつけてもらいたいとの意見をいただいた。体力テストの結果分析をもとに、後期からの体力づくりの取組を生活健康部を中心に計画・実施予定である。目標達成に向けて取り組んでいく。	・自己肯定感の向上のため、全体や各学級について、児童の肯定感を上げる取組(良い所見つけ、教師からのリフレーミング)などを行う。 ・児童会を中心に、集会やレクなどを行い、児童間での会話や遊びなどのやりとりができる機会を設ける。	「豊かな心と健やかな体」について、体力向上に向けた取組を継続して実施してもらいたいとの意見をいただいた。児童の体力向上と運動の楽しさを実感できる取組について、工夫して実践につなげていく。 本校の児童に限らず、体が硬い児童が多いことを心配だという意見をいただいた。継続的な取組となるよう、計画を立てていく。
豊かな心と健やかな体	【主体性】 【共感力】	基本的な生活習慣の確立と体力向上を図る。	① 生活習慣調査を定期的に行い、保護者と情報共有して課題の改善を図る。 ② 児童の運動への意欲向上につながる体育科授業改善や体育的行事、全校での体力づくりの取組を計画的に行い、体力向上を図る。	体力向上自己目標を設定(体力テスト、持久走、縄跳び等)し、自己目標を達成した児童を90%以上にする。	65%	C	・体力テスト前に自己目標を設定し、目標を達成した児童は、60%と目標を大きく下回った。 ・運動会直後に計画されていた対策練習が不十分であったことや暑さ対策により、屋外での運動に規制がかかったことにより、体力向上を図る取り組みが不十分であった。	・チャレンジタイムにダンスを行い、楽しく体を動かす習慣を身に付けさせる。 ・グラウンドが土に代わり、活用の幅が広がったため、外で遊ぶ呼びかけを行う。 ・目標の設定は明確な数値で設定する。 ・体育科授業の最初に3分間縄跳びを行う。	・体力向上の取組が、シャトルランの記録向上につながるものになっていなかったことや自己目標の設定の仕方、取組期間の短さ、実施時期が感染症の流行や寒波と重なったことが記録が低迷した要因と考えられる。 ・ダンスに加え、マラソンやリズムジャンプ、縄跳びを計画し、週に3回実施できる運動習慣づくりに取り組んだ。 ・シャトルランを実施した結果、自己目標を達成できた児童は20%にとどまったが、前期に比べて意欲的に体を動かす児童は増加した。	・体力テスト(シャトルラン)から、取組が直接結果に結びつくような校内マラソン大会などを位置づけた継続的な運動目標へ見直し、児童が達成感を得ながら体力向上を図っていく必要がある。	・市内の教職員に授業を公開して研修を行い、幅広く意見をいただいた。その後の授業改善や今後の研究の見通しをもつことができた。 ・暮会の回数を削減したり、校内委員会の内容を見直ししたりして、授業準備や児童に関わる時間の確保に努めた。	・育てたい資質・能力に向けて、教職員が主体的に取り組むことができてきた。 と研修内容・方法の工夫を行う。	「信頼される学校」について、前向きな学校運営が適切に行われていたとの意見をいただいた。今後も、地域・保護者とのつながりを基本とした取組を工夫・改善を行いつつながら実施していく。						
					児童が安心して生活できる学校環境の維持、向上を図る。	① ホームページや通信等で学校の取組を定期的に発信するとともに、細やかな家庭連携を行う。	児童の肯定的評価を90%以上にする。	95%	B	・研修での学びが自分の行動化につながっているという項目で否定的な回答が見られた。 ・限られた職員数で、複数の業務にあたるため、多忙感を抱えている。	・職員が主体的に研修に臨める体制を整えていく。 ・業務内容の精選、効率化を図り、授業準備も含め、児童に向き合う時間を確保していく。	・市内の教職員に授業を公開して研修を行い、幅広く意見をいただいた。その後の授業改善や今後の研究の見通しをもつことができた。 ・暮会の回数を削減したり、校内委員会の内容を見直ししたりして、授業準備や児童に関わる時間の確保に努めた。	・育てたい資質・能力に向けて、教職員が主体的に取り組むことができてきた。 と研修内容・方法の工夫を行う。	「信頼される学校」について、前向きな学校運営が適切に行われていたとの意見をいただいた。今後も、地域・保護者とのつながりを基本とした取組を工夫・改善を行いつつながら実施していく。					
信頼される学校	児童・保護者・地域から信頼される学校経営を行う。	児童が安心して生活できる学校環境の維持、向上を図る。	① ホームページや通信等で学校の取組を定期的に発信するとともに、細やかな家庭連携を行う。	児童の肯定的評価を90%以上にする。	102%	A	・児童の肯定的評価は92%であった。児童の様子を定期的交流し、校内で組織的に対応をしている。 ・ホームページでの発信を計画的に行うことで、情報発信・公開に努めた。	・児童が安心して生活できるよう、引き続き職員間・保護者との連携を図っていく。 ・学校の様子や情報をさらに地域に発信できる方法を工夫する。	「信頼される学校」について、学校として意欲的にかかり合える姿勢がうかがえると意見をいただいた。今後、地域との関わりをどのようにもっていくか、対話をしながら進めていく。	・児童の肯定的評価は96%であった。 ・児童や保護者からの声を受け止めるとともに、継続して様子を見守ったり、面談を行ったりした。	・今後も職員間・保護者との連携を継続していく。 ・学校からの情報発信として、学校だよりを町内全域に年数回(年度始めなど)配布する。	「信頼される学校」について、前向きな学校運営が適切に行われていたとの意見をいただいた。今後も、地域・保護者とのつながりを基本とした取組を工夫・改善を行いつつながら実施していく。							